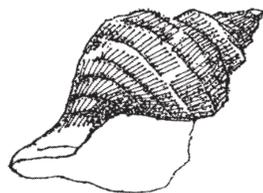


# 音の散歩路

## ～城ヶ島 その音世界～



品川駅から広軌道の京浜急行の特急で1時間20分、終点の三崎口に到着する。平日にもかかわらず同じみどり色のメッシュ帽子にリュックをかついだおじさん・おばさんがバス停前に群がっている。静かな小島を勝手に連想して来たがいきなり砕け散ってしまった。乗客肥満バスは、あえぎあえぎ坂道を進む。20

分ほどで城ヶ島である。島に入ったところのみどり帽子は残らず下車、やれやれと深呼吸して更に島の奥に進むと終点・城ヶ島バス停に到着する(写真-1)。

東に東京湾、西に相模湾を分ける三浦半島の突端に生牡蠣が横たわったように位置する周囲4キロの小島である(パンフレット)。「城

ヶ島の雨」北原白秋の詩、梁田貞の作曲、奥田良三の名歌唱で日本中に知れ渡った。音楽の力を示す好例であろう。そんな歌の雰囲気にも包まれたところは?…好奇心は自然と海に向かう。



(社)三浦市観光協会のパンフレットより転載



写真-1



写真-2



写真-3



写真-4



写真-5

バス停から数分の丘にある日本で5番目の洋式灯台・城ヶ島灯台(写真-2)に立ち寄ってから海岸に降りる。アマチュア画家があちこちの岩の上に陣取り水彩絵を描いている(写真-3)。皆さんなかなかの腕前だ。海岸に足を踏み入れ、島の周囲を散策すると、絶え間ない波音にアクセントの様に鶯の鳴声がピュルルと響き渡る音世界につつまれた。実感・サウンドスケープであった。しかし、ここもかなり汚れている。硝子のかけらは当たり前、巨大なタイヤにも遭遇する(写真-4)。しばらく岩・

砂・草原の混在する海岸を歩くと城ヶ島形に空洞の空いた「馬の背洞門」に達する(写真-5)。

この脇の階段を登って城ヶ島公園に向かう。ウミウの生息地を眺めながらこんどは切り立っ

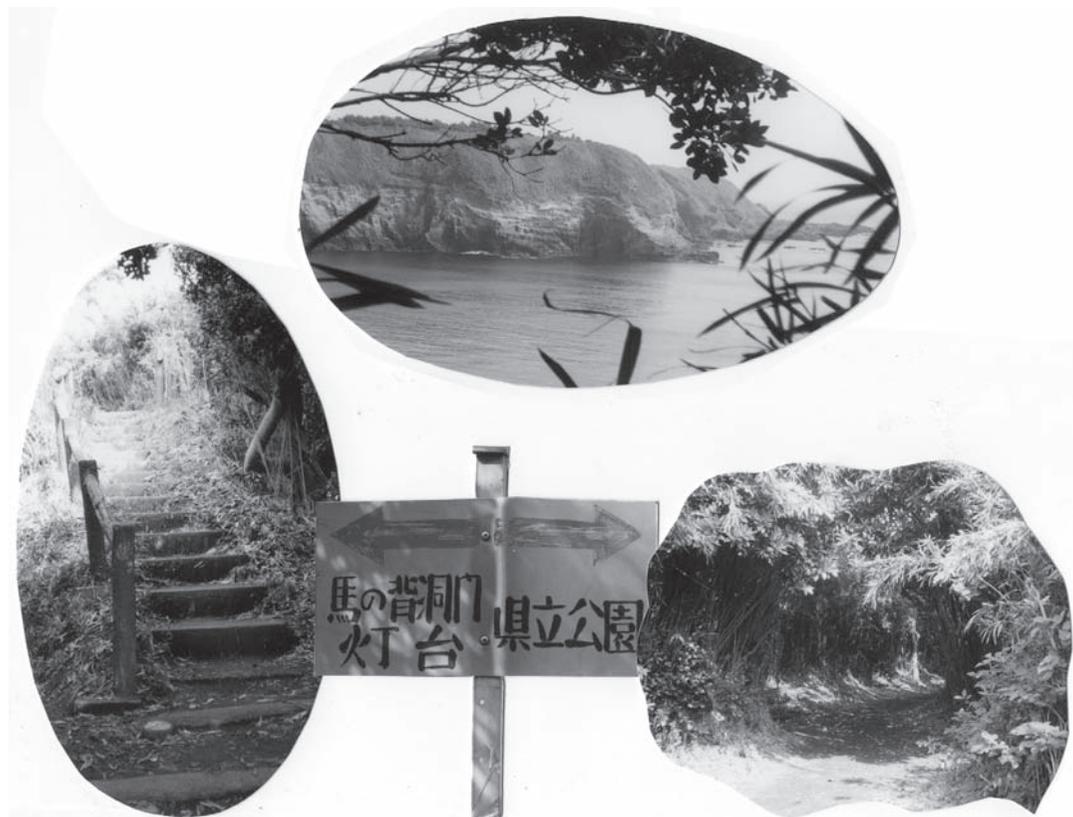


写真-6



写真-7



写真-8



写真-9



写真-10

た断崖がつらなる（写真-6）。やがて県立城ヶ島公園に到着する（写真-7）。公園では猫も生活していた。辺りに人家もなくこの公園を住処としているのであろう。展望台からは房総半島、伊豆大島、伊豆半島、富士山が眺望できるというが今回は見えない。公園の先端には安房崎灯台がある（写真-8）。芝生広場では幼稚園の遠足であろうチビッコの一群がお昼を食べていた。突如ホイッスルの音がビリビリピリリッと響き渡る（写真-9）。“静”を基調としたサウンドスケープに強烈なアクセントだ。手かざして空を見上げるとたくさんの鳶が乱舞してピュルル〜ピュルルル〜。そうかそうか、

先生はお昼も食べずに黄色い旗を振り振りホイッスルを鳴らして鳶の襲撃と戦闘状態なのである。気がつけば既に12時過ぎ、疲れた、と自販機のコーラのボタンを押すと、“ガラガラゴトン…午後もガンバッテ下さいネッ”と猫なで声…、ヨケイナお世話と思いつつそれとは無関係に身体はシャッキと気を取り直し、城ヶ島公園から城ヶ島大橋の根もとに降りる。

そこに北原白秋記念館と白秋詩碑がある（写真-10）。白秋詩碑は昭和24年に建立、…雨はふるふる城ヶ島の磯に 利休鼠の雨がふる…白秋の自筆を彫ってある。白秋記念館は無料で貴重な資料を閲覧できる。詩壇の寵児であった26



写真-11



写真-12

歳の白秋は、ひょんなことから恋愛事件にかかわり姦通罪で拘置され、実家の醸造元も失火を受けて倒産し、一家は白秋を頼ってくるなど、どん底に落ち込んでしまった。城ヶ島に死にに来た白秋は「死のうと思ったが、死ぬにはあまりに空が温く日光があまりに又眩しかった」と思いとどまり、大正2年から3年にかけて三崎町に住んだ。そんなとき演出家の島村抱月が音楽会で発表するため作詞に白秋、作曲に梁田貞を指名して依頼し、大正2年に「城ヶ島の雨」は完成した。二人とも28歳。この曲が全国区になったのは昭和8年に録音した奥田良三の力が大きい。梁田貞と奥田良三はともに札幌中学の卒業。

城ヶ島大橋に登り出て渡る。長さ575m、高さ21m、昭和35年に竣工した。橋の歩道はすべてが展望台である。通り矢が見える（写真-11）。小高い山は関東大震災で小島が隆起して地続きになった。白秋記念館で見た昔の写真の通り矢は、小島と陸に松が茂った風光明媚な場所であった。埋め立てや建物が乱立して面影は全くない。後方、丘の上では宮川公園の風力発電の羽根が勢いよく回っていた。近寄った人は

空力音に驚かされ、プロペラの回転に恐怖を感じるというが、今回は時間切れで残念。

城ヶ島大橋を渡りきると三崎港が見えてくる（写真-12）。城ヶ島を天然の防波堤とする漁港であり、まぐろなどが有名。“海鮮どんぶり、にぎりすし”と正統派にまじってB級グルメの店“三崎まぐろラーメン”もある。ちなみに2010年9月のB-1グランプリin厚木で5位入賞とのこと。

三崎漁港からバスで三崎口に向かい帰路につく。4時間ほどのサウンドスケープ・ハイキングであるが、健脚向きであろう。

（財団 江沢 記）

○GoogleのYouTubeで「城ヶ島の雨」を検索すると多くの歌謡歌手が歌っている。そんな中に、昭和8年の奥田良三の名歌唱に追従して現れた曲が交じる。例えば「城ヶ島の時雨」「城ヶ島夜曲」「月の城ヶ島」などなど、電気吹込 KOKKA RECORDのレーベルが78回転で回り、レコード針のバチバチ音を伴奏に城ヶ島にこぼれ落ちた怪しげな曲想に思いめぐらすのも楽しい。